



かなうち とみお
叶内 富夫 議員

災害時における 危機管理について

避難訓練を実施し、災害に備える



昨年、福祉避難所「てとて」で行われた全職員対象の避難訓練

【質問】 近年、東日本大震災や熊本地震など、全国で自然災害が幾度となく発生し、大きな被害を受けています。当町においても、豪雨による河川の増水等で想定を超える被害が発生しました。来たる災害に備えて、防災センター、福祉避難所「てとて」を整備して

【町長】 災害時を想定した訓練については、全職員

を対象に毎年行っており、昨年は7月に行いました。内容は、大雨洪水警報及び土砂災害警戒情報が発表されたのを受け、非常招集訓練として、町の防災拠点である防災センターに町災害対策警戒本部を設置し、引き続き避難所開設訓練として、福祉避難所及び農村環境改善センターの避難所開設準備を行い、高齢者等避難を発令し各避難所に受け入れるものです。防災センター及び福祉避難所での訓練は完成後初めてでしたが、コロナ禍での訓練としては2回目であり、避難所入り口での検温や健康カードに記入する受付に時間を要したものの、マニュアルに沿って感染症対策をしながら避難所の開設と運営の手順について確認できたところで、指定避難所として、町では、生涯学習センター、舟形小学校、福祉避難所、中央公民館、富長交流センター、農村環境改善センターの6か所で

職員を配置し訓練を行っています。食料の備蓄については、生涯学習センターなどの各指定避難所に水や缶パンなど1日分を備蓄している状況です。食料以外にも必要最低限のものだけを備えているため、最低でも3日分の



避難所にある主な備蓄品

食料や常備薬、衛生用品のほか、各家庭で必要なものを話し合っ準備しておくことが大切です。



さいとう よしひこ
斎藤 好彦 議員

本町が目指す農業政策とは

多様な農業と儲かる農業の推進



農業散布はドローンにおまかせ!!

【質問】 コロナ禍による外食需要の低下により、コメの消費減に歯止めがかからず、二年連続の米価下落により農業継続が困難な状況になっていると思われま

【町長】 小規模稲作農家への支援策については、町独自の中古農機の導入や機械の共同利用を支援してきました。今後は経営強化のためにも組織化し法人化を目指して頂きたいと思

います。一方、大規模農家の作業の効率化については、圃場整備を推進しており、労働力不足を解消する対策は、ロボット技術やAI(人工知能)、ICT等を活用したスマート農業の導入が有効であり補助事業などの情報を提供していきます。本町としては、経営規模の大小や品目に関わらず、家族経営の小規

模農家から農業法人まで、さらには6次産業化など多様な農業の発展を図りながら儲かる農業を推進してまいります。

タブレット授業の 取り組み方針は

情報活用能力の 育成に取り組む

【質問】 子どもたちは、好奇心が旺盛で操作の習得も早くタブレットによる授業にも興味をもち面白いとの声もあるようです。しかし、日々進化するICT環境が、多忙な教員のさらなる業務負担に繋がらないのかなど課題があると思

【町長】 本町では、児童生徒に1人1台のタブレット端末導入等の環境整備を令和2年度までに完了し、今年度は中学校でAI教材を導入し、テストや宿題をプリントの代わりにそのアプリ上で作成し、簡単に配信することが出来るなど有効に活用しています。

今後も、ICTを効果的に活用し、児童生徒一人ひとりの能力や特性に応じた指導等を充実させ、新たな価値を生み出していく力や、日々進化する情報や情報手段を選択し活用していくために必要な情報活用能力の育成に取り組みで行きたいと考えています。



タブレット授業はたのしいね!!